

3

30

57

27

29

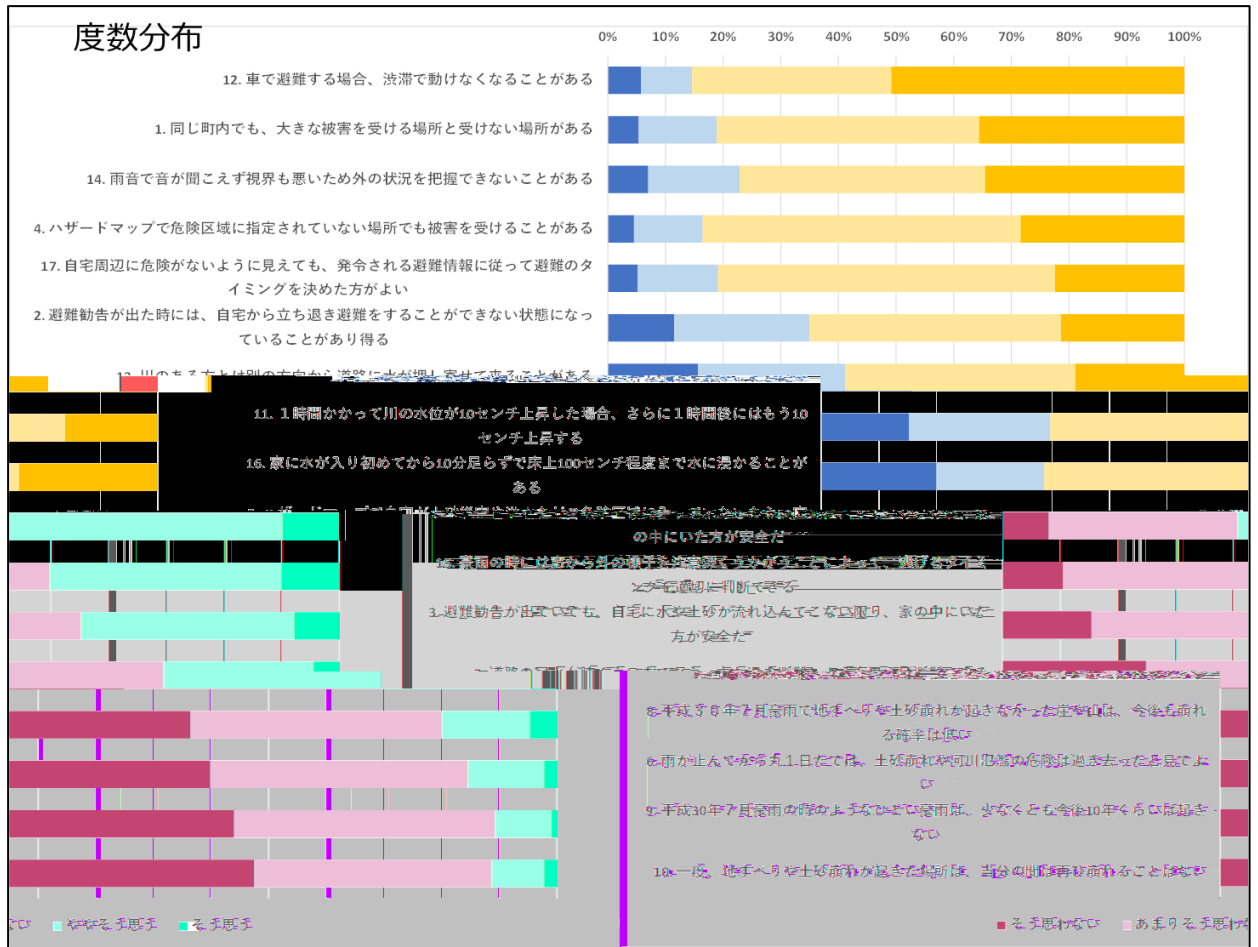
500

17

486

19

17



P18

30

30

10

50

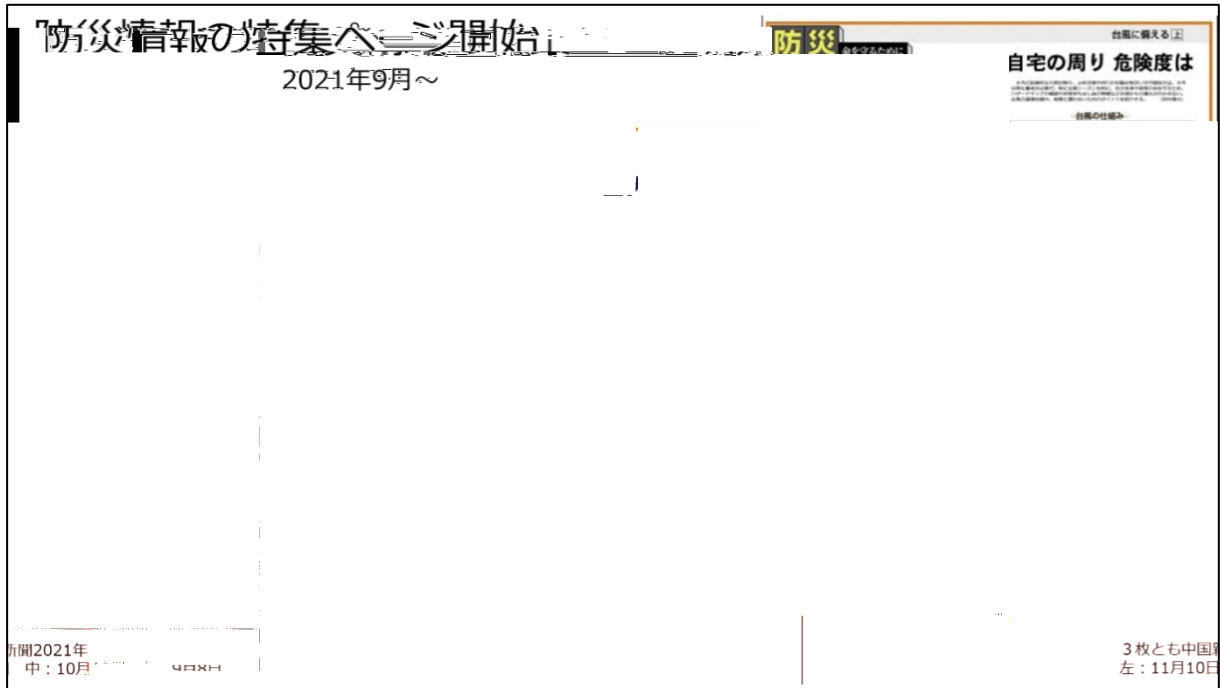
27

51

30

「ハザードマップで自宅が土砂災害や洪水などの危険区域に入っていないなら、家の中にいた方が安全だ」と思う人けハザードマップを確認しているか

	ハザードマップを見ていない群		ハザードマップで自宅周辺の危険を把握した群		ハザードマップで経路上の危険まで把握した群		合計 人数	全回答者
	人数	%	人数	%	人数	%		
思わない	91	46.7	64	32.8	40	20.5	195	そう思
思える	147	51.0	99	30.6	53	19.4	299	そう
483	合計		238	49.3	152	31.5	93	19.3
土砂災害危険区域・浸水想定区域内居住者								
57	思わない		13	22.8	25	43.9	19	33.3
37	でき	思う	11	29.7	14	37.8	12	32.4
94	合計		24	25.5	39	41.5	31	33.0
ない	このイメージを持つ人の50%強はハザードマップを確認してい							



P1

2014

2015

令和元年 総務省「放送と通信を連携したローカルコンテンツの配信
及び災害情報の提供の在り方」に係る実証事業

きめ細かい地域情報や二つの提供



P2

2019

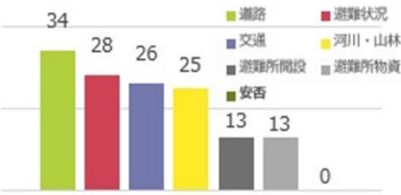
2019 11

2014

41

災害時において、地域住民からは、どのような情報が知りたいですか？（複数可）

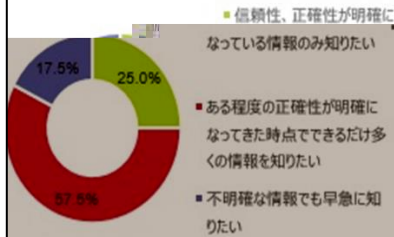
評価・考察



地域住民からの自発的な情報発信の内容として、「道路の状況」や「近くの避難所の避難状況」等、報道機関からの詳細な情報発信が難しい分野への期待値が高かった。

個人によって発信された情報は、信頼性や、正確性が不十分な場合があることについてどのようにお考えですか？

評価・考察

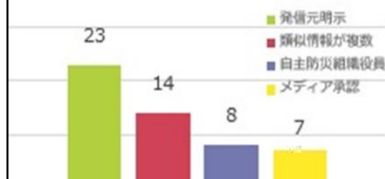


災害時には約80%のモニターが何らかの信頼性担保を期待している。災害時という緊急事態における情報流通の運用ルールについては、別途検討が必要。

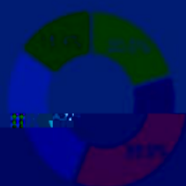
P3

個人による情報発信について、その信頼性、正確性を担保する方法として、どのような方法があると思われますか？

評価・考察



情報の正確性については、「情報の発信元を明示した上で情報発信を行う」ことで、正確性の担保が可能との回答が最も多かった（56%が選択）。次いで、「複数の人が類似の情報を発信した場合に流れる」が多く（34%が選択）、複数の手法を組み合わせて情報発信を行うことが必要との回答も多かった。



P4

85

100

